

授業概要

本科目では日本文学の概要について、古代から近代前期を中心に講義する。5～6世紀ごろ中国から漢字文化が輸入されることと密接に関連しつつ漢文→漢字仮名交じり文という文体が生まれ、それと連動して独自の日本文学の世界を築いてきた。その成り立ちから近代前までをその時代時代の代表的な作品の代表的な場面を読みつつ講義する予定である。日本文学の代表的な概念や特徴を常に考えつつ進めることとしたい。なお日本文学には韻文・散文とあるが、本講義は散文を中心に行う予定である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション。受講の注意。受講生の基礎知識の確認。
第 2 回	神の文学の世界—『古事記』『日本書紀』と帝の位置づけ
第 3 回	万葉集と「令和」という年号—古代の詩とさらにその起源にむかって
第 4 回	「物語の出で来はじめの祖(おや)」—『竹取物語』と難題婿(なんだいむこ)の話型
第 5 回	物語と和歌—『伊勢物語』・古今和歌集・在原業平の相関関係／増減する物語
第 6 回	『源氏物語』(1)—物語文学の最高峰の成り立ち・作者・作品概要
第 7 回	『源氏物語』(2)—作品の意義・後代への影響(享受)
第 8 回	『紫式部日記』と「光る君」—女流日記文学が書き残したものの/女性たちの生き方
第 9 回	ジェンダーと文学—『とりかえばや物語』が語りかける性別の問題
第 10 回	謡曲(1)—『花鳥風月』に出てくる巫女の霊性
第 11 回	謡曲(2)—『須磨源氏』の中の「光る君」の描かれ方
第 12 回	『雨月物語』(1)—「吉備津の釜」の怪異表現と妖気
第 13 回	『雨月物語』(2)—「青頭巾」の中の唱道歌のみちびくところ
第 14 回	本居宣長の述べる「もののあはれ」論とは?—小林秀雄論と共に読む
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

- ① 古典文学の概略を歴史の流れに沿って理解することが出来る
- ② 各時代の代表的な作品について概略を理解することが出来る

履修上の注意

文学史の講義はとかく暗記中心になりがちであるが、事項や作品のあらましや存在意義・評価も含めて考察することを大切にすること。出席はもちろんのこと、ただ出席するのではなくメモをとる積極的な姿勢をもつことを要求したい

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと
復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと

評価方法

期末試験(70%)・受講態度(30%)で総合的に評価する。

テキスト

特に学生個人であらかじめ用意する必要はない。毎回授業資料を配布・提示する予定である。参考文献としては、学術情報センターで「日本文学史」で検索し、小西甚一／丸谷才一／藤井貞和などの関連書籍を読むと理解が進む。藤井貞和『日本〈小説〉原始』(大修館書店 1995年)などもお勧めする。